

令和6年度第1回静岡市立登呂博物館協議会会議録

- 1 日 時 令和6年7月25日（木）午前10時から午前12時まで
- 2 場 所 静岡市立登呂博物館 1階交流ホール
- 3 出席者 （協議会委員）堀切 正人 会長、木村 貴子 委員、鈴木 杏佳 委員、
鈴木 健介 委員、田宮 縁 委員、藤田 友子 委員、丸山 真史 委員
（全7名）
（事務局）岡村館長、渡邊（一）主任主事、清水主任主事、
松原主任主事、渡邊（智）主任主事
- 4 傍聴者 0人
- 5 議 題 （1）令和5年度の事業報告
（2）令和6年度の事業予定
（3）関連報告
（4）議題 「令和5年度までの協議題と現状」

6 会議内容

（1）令和5年度事業報告

【事務局説明】館報を基に説明

（2）令和6年度活動計画

【事務局説明】年間スケジュールを基に説明

（3）関連報告

【事務局説明】教員と学芸会の意見交換会の開催について説明

【① 報告に対する質疑】

（堀切会長）

ありがとうございました。ただいま昨年度の事業報告と今年度の活動計画をご説明いただきましたので、委員の皆様方からのご意見やご質問をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

（事務局）

一つ説明し忘れました。館報の9ページを開いていただきたいと思います。私の方で入館者が4月、5月から5月、6月に移ってきた話をしたのですが、これはどうも学校のカリキュラム的な部分で少し変化などがあるらしいというようなところで、今までは4月、5月に予約が非常に多かったんですけども、5月、6月と後ろにきております。ここについてはその辺の説明を鈴木先生にさせていただけたら、もし分かればお願いしたいと思います。

(鈴木健介委員)

今年度から教科書が変わりまして、今まで一冊だったものが公民と歴史の二冊になりまして、今までは歴史から入って弥生時代ということで、4月、5月半ばぐらいにこちらにお世話になるのが多かったのですが、今はそれが最初に公民から入って行って、5月、6月に弥生時代の範囲に来ていると僕も担任から聞きました。だから、ピークが学校はその事情かなと思っています。合わせるとやっぱりそこが学校はどうしてもピークになるので、その時期が一番忙しくなるのは仕方ないな、そこをなんとか分散できればいいなと思うんですけども、そこは学校でも教科書通り進めることになります。

(事務局)

ありがとうございました。その辺の情報共有をしていくことは大事ななと思っておりますので、よろしくお願いします。

(堀切会長)

ありがとうございます。他に何かございますでしょうか。

(田宮委員)

こども学芸員についてですけど、学芸員の受講をしたお子さん方はどういう活躍の場があるのでしょうか。すみません、勉強不足で申し訳ないです。よろしくお願いします。

(事務局)

今年度につきましては、計三回のこの講座によって、今回は夏の企画展の関連ということで実施をしているんですけども、そのときには今回につきましては、静岡市内の遺物を扱っている、出土品を扱っているということで、その出土品がどのような手順を経て博物館に展示がされているかということを学んでもらおうということで、遺物が展示物になるまでということで、発掘の体験から出土品の接合をして展示をするということで、8月3日最後は発掘体験で見つけた発掘した出土品を、こども学芸員の皆さんに説明文を書いていたいて実際に展示を作ってもらい、その展示を期間を設けて博物館で展示をするというような流れで今回は企画をしております。

(事務局)

今は内容の話ですけれども、今、色々な意見をいただいている中で、こども学芸員修了者をもう少し活用していった方が良くないですか、という意見をいただいております。それはどういうことかと言いますと、例えば修了証書を渡して、はじめは修了証書、次はマイスターなのかマスターなのか、あるいはドクターなのかという、そういう段階を踏んで、一回で終わってしまうものではなくて、そのあとそうした終了したこども、生徒が、もっと関連して博物館と連携できるようなことをやった方がいいんじゃないかという意見をいただいております、今そうした仕組み作りを考えているところです。今、田宮委員が仰られたことはそういうことかなと思いますけど、今まではやればやりっぱなしで終わっていることが非常に多くて、今回この後で話をするのもそうですけれども、協議会で提言とか受けたんだけど、それがどうなっている、足りないんだったらそれを今度どういうしたらいいのというまた意見を貰うというふうに、継続性みたいなものをやっぱり私たちは考えていったほうがいいんじゃないかという考えを今改めているところになります。

(田宮委員)

まさに今、仰っていただいたようなところで、学んで個人で終わるのではなくて、それをどういう形で社会に還元していくかというところが重要だと思うんですね。今、教育の場面が、活用をどのようにしていくかというところにもポイントを置いて、どうしても学ぶ、学んだことをどう活用するかというところに視点を置いていく必要があるかなと思いました。そうすると更にモチベーションが高まり、あと継続して関わっていくことが可能になると思いまして、どのくらいのレベルかはわかりませんが、日本平動物園も同じような形でやっていて、その方々がボランティアガイドとしてお子さんも含めてですけれども、継続して愛される動物園になっているので、そういう仕組み作りができると更にいいだろうなと思いました。

(堀切会長)

他に何かございますでしょうか。

(鈴木杏佳委員)

一点質問ですが、利用者数のところで、小中学生は夏休み、8月は7月に比べて三倍くらい来場者数が現状あると思うんですが、逆に高校生、大学生のところを見てみると高校生、大学生だと夏休みは8月から9月なのかなと思っているのですが、なかなか大学生に割と時間がある9月があまり人が増えていないというか、少し7月、6月に比べると増えているのかなとは思っているのですが、高校生、大学生に向けて入場者数を増やす取り組みとか、どういうふうに来てもらうかという取り組みが現状あれば教えていただきたいです。

(事務局)

非常に私たちも頭がいたいところです。8ページを見ていただきますと、有料あるいは減免、どちらも高校生、大学生は壊滅に近い状態です。ですから、登呂博物館については小学校にピーク、中学校も若干、高校、大学になると皆無になっていく。そして子どもさんが出来て公園に来るくらいになってくると、どうも少し復活してくる。そして50代になると急に来てくれる人が多くなるという、今のこれを分析するとどうもそんな感じです。ですから、高校生、大学生にどうアピールしていくかが非常に大きな課題だと思うのです。でも、もう一つ言うと、中学生もそういう意味では問題があるかなと思うのです。そこで部活動や色々なところには行くんだけど、登呂遺跡だとか博物館になかなか行かないというのが、その時点でできてしまいますので、中学生へのアピール、それから、高校生、大学生へのアピールを考えていまして、そうしたテーマも考えなくちゃいけない。小学生にという意味ではトロバーだとか、うまくハマるかなと思うんですけども。中学、高校、大学というところと抜けている。今、一つは高校生との連携に力を入れております。これは、皆さんご存知かもしれないですけども、復元水田での稲作体験で城南静岡高校の生徒たちが水田を借りて授業をやり始めた。部活としてです。それから、もう一つは駿河総合もやっております。そうしたところの人たちが何を求めているのか、今まで私たちはそういう人たちと接点がなかったので、そういうところで色々聞き取れる状況が出てきましたので、一つはそういった状況を利用してということを考えてときに、あるいはこちらにも大学の先生がいらっしゃいますけど、大学の先生方とも、どうしたらマイナーになってしまう博物館と接点を持てるのかというところを色々考えていかなくちゃいけないだろうと、まだ具体的なところに踏み込めていませんが、そういう問題意識は同じくあるような状況です。回答になっているか分かりませんが。

(堀切会長)

高校生、大学生になかなか来ていただけないというのは、登呂博に限らず全ての博物館、美術館で同様の傾向があります。忙しいんですかね、中学生、高校生。なかなか来ていただくのが難しい。大学生に関しては中高に比べれば時間的余裕があるので、いつもご尽力いただいているとは思いますが、中・高生よりも大学生がねらい目です。ではどうやって大学生に来館してもらうかということですが、登呂博物館に関わりのある先生のゼミ生に関わっていただくのが一番確実という、ご意見もこれまでの協議会であったと思います。引き続き継続してご意見いただければなど。

まだご意見あると思いますけれども、また最後の方でまたご意見頂戴できると思いますので、次の議題に移りたいと思います。

今回の議題のメインとなります、「令和5年度までの協議会の議題と現状について」今回振り返りをしたいということでしたので、事務局から説明をお願いいたします。

(4) 議題「令和5年度までの協議題と現状」

(事務局)

資料がホチキス留の二枚綴じの物が4ページの分と、令和6年度第1回静岡市登呂博物館協議会資料と上に書いてあるものと、もう一つ横向きでカラー刷りのものがあります。そちらをご覧ください。

今回の協議会議題につきましては、先ほど館長からもお話いただきましたとおり、これまでの振り返り、今いただいたご意見に対して、どんなことを博物館が取り込んでいるかということをご共有、ご報告させていただいて、それに対してご意見をいただきたいなと思います。

まず始めに、これまでの流れということで資料4ページから一番最後のページになりますけれども、資料1、令和5年度協議会の方針ということでご覧ください。この中で10年分過去を振り返っているんですけども、その中で流れとしましては、表の中の中段ぐらい、歴史文化資源の活用、その周辺地域との連携による地域活性化について各エリアをモデルとした歴史文化資源の活用法という答申書ということで、平成31年3月に静岡市行財政改革推進審議会から答申を受けています。その概要がカラー刷りの資料となります。登呂博物館の協議会ではその答申を受けまして、平成31年度の第1回から令和2年の第2回、令和3年の1回まで議論を重ねて、令和3年に答申を受けております。その内容が下にまとめていますけれども、地域住民が愛着を持てる登呂博物館にしていくための取組み、そのための要素として親しむというのをまず土台として、学ぶ・関わる・発信する、この3つの要素が、合計4つの要素が必要だと答申を受けております。

これは令和3年度に受けた答申の内容ですけど、2ページ目をご覧ください。令和3年度の第2回の協議会ではコロナ禍ということもありましたので、タイムリーといえますが、このコロナ禍についての議題を取り上げているんですけども、この答申を受けての議題ということで、令和4年度の第1回、第2回で地域住民ということをテーマに、特に10月に行う登呂祭りという地元の祭りを対象として意見をいただきました。それについてまとめたものが2ページ目の上段部分です。その中で、令和4年度と令和5年度について登呂博物館で実施した事業についてまとめております。

まず一つ目です。登呂まつりやスルガフェス、駿河区役所の方でやるイベントなどの駿河トロバーWeek、そして連動しているんですけども、その中で登呂博物館で合わせて体験見学会やナイトミュージアムを実施しております。あと、登呂まつりの運営にあたって地元の登呂祭りの実行委員会だけではなく、ワークショップを開催することによって登呂祭り実行委員会と地元自治会、駿河区地域総務課、登呂博物館、芹沢銈介美術館と静岡大学の学生を含め、計令和4年度は2回、令和5年度は3回のワークショップを実施して登呂祭りの企画運営にあたったというような事業を実施しております。

続きまして、令和5年度の第1回協議会では小中学校における地域の総合学習による登呂遺跡、登呂博物館活用についてということで、特に学校教育というところについてご意見いただいております。いただいたご意見はお示ししている通りです。その中で特に今年

度になりますけれども、博物館で実施した授業について博物館では市政出前講座のメニューの中で静岡市の中から登呂遺跡というメニューがあるんですけれども、その中で出前講座を実施するにあたり、学校の事情だとか授業の進捗状況に合わせたところを先生方と打ち合わせをさせていただいて、それによってそれに合わせたメニュー、授業の内容を実施するということをしました。

まず始めに、令和6年の5月と6月、2回にわたって南部小学校で実施しました。スクリーンの写真をご覧ください。こちらが事前学習で登呂遺跡についての講義と実際に出土した土器に触るということで、縄文土器と弥生土器に触る体験の講座を実施しました。これは今、土器に触っている様子です。弥生土器と縄文土器の破片をお渡しして、どちらが縄文土器だろうか、どちらが弥生土器だろうか、ということで子どもたちに考えてもらって、いくつか破片を渡しているので、グループ分けをしてもらうということで、観察をしてもらうとともにその資料の扱いについて、出土品というのはこういうものなので机の上のものを片付けるとか、ということで文化財の扱いや弥生時代・縄文時代についても触れてもらうというようなことをしました。その事前学習で、登呂遺跡について学んで登呂遺跡や弥生時代について学び、2回目として登呂遺跡の見学に6月12日に来ていただいています。そのときには事前の学習はしておりますので、登呂遺跡で説明する時間が事前学習で取れていますので、さらに追加でメニューをということで特に今回は土器炊飯を学校向けに実施することで土器炊飯をする様子を見学していただき、それを実食してもらうということを実施しました。南部小学校での出前講座です。

続いて、5月に大里西小学校で出前講座をしたんですけれども、大里西小学校は博物館に見学に来るには学校としては近い位置にあるんですけども、バスを借りるほど遠くはないし、歩いて行くにはちょっと遠いということで、博物館に見学に来られないという事情をお伺いしましたので、講座とミニチュア土器作りということでこちらから出前講座を実施しました。

また、6月6日、7月9日の2日間で静岡市立清水高部東小学校に博物館に来ていただくときにこんな講座が出来ますよ、土器に触る体験が出来ますよということでご紹介したところ、事後学習としてぜひ来てほしいというような話をいただいて、そのときには時代が古墳時代にまで授業が進んでいるのでということで、縄文土器、弥生土器、須恵器に触る体験を実施しました。実施予定の学校に向けての先ほどご紹介いたしましたけれども、実施予定として先生方との遺跡、博物館の見学会や意見交換会を開催する予定です。

続きまして3ページ目をご覧ください。令和5年度第2回の協議会では、登呂遺跡の持続可能な活用に向けた人材・団体の育成ということでご意見いただきました。その中では民間の団体だとか、各学校関係との連携、ボランティアについてご意見をいただいております。その中で先ほどもご紹介しましたがけれども、南部小学校の登呂の体験授業だとか、あとは駿河総合高校の家庭科での水田活用、あとは来月17日開催予定ですがけれども、静岡市の国際交流課が主催の多文化共生推進事業の中でやさしい日本語講座というものがあります。こ

ちらは外国人の方もその外国語で話すのではなくて、やさしい日本語、分かりやすい日本語を使って話すための講座、その中でも特に8月17日には、登呂博物館を会場にして登呂遺跡を題材に登呂遺跡の出土品だとかを紹介するのにやさしい日本語を使おうかということで取り組んでいただく予定です。また現在進行中、検討中の事業として城南静岡高校地域貢献部によるこちらは地域貢献部からもご提案いただいているんですけども、博物館の土曜日曜の週末に単発のイベントではなくて、継続的なイベントを開催したいとそういう準備だとか計画をしていきたい、合わせてそこで自分たちが育てた赤米を利用した食品をカフェみたいなことを開くために商品を作りたいというようなことでお話をさせていただいております。特にこの事前準備といいますか、リハーサルの意味も含めて、8月4日の登呂ムラ体験フェスティバルでは白いチラシを配らせていただいているんですけども、そこでは城南高校のブースの出展ということで、カフェとトロペーの宝探しというようなことで、高校生が計画しているもののうちすぐにできそうなものをやってみようということでご出店していただく予定です。あと団体につきましては、博物館のボランティアの自主的な活動をというご意見いただいておりますので、それを促進するために、今ボランティアの方々にどんなことをやってみただとか、どんなことが得意だとかいうことを意見を聞いて、それでまたグループ分けだとか、研修会を開いていけたらいいなということで進めております。いただいたご意見に対して博物館が現在進めている実施した事業の報告は以上です。

【議題に対する意見】

(堀切会長)

今の事務局からの説明を踏まえて委員の皆様から活発なご意見をお願いしたいと思います。

これまでの協議会とか、それを含めた答申とか諸々をご説明いただいた通りこれまでも色んな議論やご意見が出ていますね、それを博物館の方でできるものを随時形にさせていただいているということだと思うんですけども、それを今回は評価すべきところと検討すべきところとご意見いただければと思います。

(鈴木健介委員)

南部小学校です。5月と6月に2回実施していただきありがとうございました。自分2回実施は初めてだったのですが、どうなのって聞いたときに1回目に来ていただいて、土器を触らせていただいたり、そうすると2回目実際に行ったときに何を見て来たいとか、どんなものを知りたいっていう視点が定まって行っていた子が多かったようです。だから2回、最初触らせて次に行くという、これは効果的なんだなと思っています。今これを見たときに、色んな学校で先に見学とかパターンが色々あるので、この柔軟さがいいなと思っています。これ職員とか子どもは近くなので2回来ていただけたと言っているんですけど、どこの学校

でも基本は行けるわけですか。

(事務局)

そうです。今お話をさせていただいている中では、その学校の事情に合わせた形で、なるべく実施をさせていただきますというお話をしております。ただ、メニューによっては南部小学校さんみたいに近いと移動時間が少ないので、土器炊飯のような事前に炊くのに一時間くらいかかるようなメニューでも実施できますけれども、高部東小学校さんは清水の小学校ですので、距離によって移動時間や他の遺跡を回る形になると実施できない授業やメニューもあるので、今回の土器炊飯については特に南部小学校さんだったのでできたということもあります。私たちとしましては、今、私たちが調べた中で静岡地域の小学校が全て社会科見学の中で博物館に来ているのではなくて、そうすると60%ほど6割程度の学校しか来られていないという事情があります。ですので、その事情が大里西小学校みたいに近いけれど来られないという事情がありますし、遠いからこそ来られないということもあると思うので、来ていただくものと私たちから出向くもののバランスの中で、すべての静岡市内の小学校達に登呂遺跡のことを知ってもらえたらなということで、まずはそれを知ってもらおうということで宣伝とか、あとは事情に合わせてということで広げて行けたらと考えております。ここからは館内での協議の内容ですけれども、いずれ実施、その数が多くなってしまうのであれば、例えば土器に触るような破片の物であれば、先生方に講習をしてそれを貸し出すという形で取り組んでもらうような形まで持っていく、私たちも人員に限りがありますので、その辺りはなるべくは協力しようと思えるような形を整えようと思うのですけれども、そうでなくても対応できるような形作りを今後取り組んでいけたらなということで、今進めています。そのための第一歩としてまずは出前講座をやっている、社会科見学に来てもらうというところを知ってもらおうといえますか、認識を持ってもらおうという段階です。

(事務局)

出前授業ですけれども、今まで各学校さんと打ち合わせをしながら、事情に応じてメニューをとという形にさせていただいていたんですけれども、逆に言うと何でも出来ますよというような提示の仕方だったので、学校さん側から具体的な何分の授業で何クラスの場合だとどういうことができるのか、というようなことを具体的に提案することがあまりできていなかったのも、今回、南部小学校さんの方で2クラス、高部東小学校さんで3クラス、大里西小学校で4クラスという形で色々人数に応じて、あとは授業に使わせていただける時間にも応じて、色々今年メニューをどういうふうにやっていこうかというサンプル、例になるようなプランというものが登呂博物館のなかで出来上がりつつあるので、6年度末を目安にまずは出前授業の方、例えば2クラスであれば3クラスであればというような形で、ある程度プランをもうちょっと分かりやすく例示できるような仕組みをこちらで整備して

いこうとは考えております。あとは、近隣の学校の場合だと、博物館のボランティアさんにもお声がけをして当日学校に集まっていたいただいて、例えば、今回大里西小学校さんが4クラスが同時に授業を開始する形で職員としてはかなり人数を揃えなければいけなかったような形だったんですけれども、近隣ということもありましたので、ボランティア4名の方に当日現地に集合していただいて、ミニチュア作りにご協力いただいた形もありましたので、そういった形でボランティアさんとも場所によっては協力を募ることができるんだなということが、出前授業の中で我々としても展望が描けるような形になりましたので、そういうことも今後もボランティアさんにもよりこういったことをPRしていったら、出前授業にご協力いただけるような形を取ればいいなと思っております。

(鈴木健介委員)

学校で話を聞いた時に、子どもからその時に説明していただいた方から「これは私が組み立てたんだよ」と実際の物と本筋とは違う裏話みたいなことを聞けてすごく楽しかったと聞いています。それから、私、前任が昨年まで付属静岡小学校にいたのですが、そこは毎年6年生がもう少し早い時期ですけれど、汗をダラダラかきながら歩いてここまで来るんですね。魅力があるものには来るんだな、行くんだなというのは実感としてあります。そうするとやっぱり小学校はそうやって今熱くなっていて、先ほどの話に戻ってしまうと中高大は教科書に遠い部分なので仕方がないかなと思っておりますが、感想です。

(堀切会長)

今の学校との連携という点でも結構ですし、それ以外のことで結構です。

(田宮委員)

今、大変色々な活動が始まって動き出したなという感じがいたしまして、やはりカスタマイズできるパッケージがあるというのが大切なんだなと思っております。それともう一つは、今回の意見交換会、見学会あると思うんですけれども、もう少し広い形で社会科とかそういうことだけではなくて、一般の先生方への教員研修会、教育委員会様とコラボレーションして組んでいく、例えば、教師塾の中に入れてもらうとか、そういうふうに形がきつとできるとさらにいいんだろうなというのを思いました。今、鈴木校長先生のお話のように、やはり繰り返しというのがとても重要なので、総花的ではなくて、繰り返し関われる。さらに一番の評価が登呂博物館に来たら来てよかった。それをどういうふうに親を連れてくるかとか、それがたぶん一番の評価だと思うんです。他の人に子どもが自主的に伝えられる、そういうなっていくとさらに良いのだろうなと思いました。それともう一つは、やはり大切なのは、鈴木先生が仰ったように裏話。要は、意見に注目するのではなく人に注目するんですよ。子どもたちとか、もちろんそれを通して学びを深めていくということもあるんですけれども、苦労話とかそういったこととか思いとか、客観的なことだけではなくて、主観的なこと

もきちんと位置付けてガイドしていただけるといいかなと思います。あともう一つは、ボランティアの協力、それは非常に他の東部の社会教育施設とかでもあるんですけども、ボランティアさんって有償ですか、無償ボランティアさんですか、そのあたりも含めてなんですけれども、ボランティアさんの考え方をこれからちゃんと考えていかなければいけないかなというのはあります。ボランティア、きちんとした形で研修とかそういったものを受けていただいて、有償での形だとまた変わってくるのかなというふうに思いました。職員さんや学芸員さんたちの代わりにお子さんたちと関わるわけなので、そうしたときにあまりにも差ができてしまうと、私ほかの所でやはり見ていてそれは感じているところがあるので、その辺りを検討していただけるとさらに良くなると思います。

(事務局)

今、お話をいただいた中で一つ補足をさせてください。まずは教師塾の話ですけれども、今年度9月にこちらで一つ講義をやっていただくことになりました。報告が漏れていて申し訳ございません。なので、教師塾につきましては今年度、登呂博物館を一つ題材に話ができる予定です。もう一つは今回の意見交換会の開催にあたって、まず初めに市の教育センターに相談をしていきました。ただ、そのときにはなかなか教職員の研修の中も割といっぱいになっているので、余地がなかなか難しい、すぐにすぐは難しいなという中でこの自主研修会をご紹介いただいたような流れになっております。なので、自主研修会の先生ともお話をさせていただく中で、今回第1回なので、これがどうなっていくのかわからないですけども、お聞きした話だと歴史博物館で開館直後、開館時くらいにその研修会を先生方でやったときには隣の城内中学校の先生がいて、そこから話が広がって連携事業みたいな、博物館に生徒たちが赴いて見学して、そこから自分たちがテーマを見つけて主体学習をするというようなことの話が生まれたよ、というようなことをお聞きしていますので、今回はそんな話を継続的に何かこの意見を聞くだけじゃなくて、双方の中でより深められればいいなというようなことを想定しております。

(事務局)

もう一点、先ほどご指摘の中に教員研修会という話がありまして、今年、特に静岡市の先生方と意見交換会を開催させていただくのですが、今、日本全国での形になるんですけども、夏休みに教員のための博物館の日を、教員向けのプログラムを展示したりとか、無料で展示を見ていただいたりということを全国の東京の国立科学博物館などが中心となっていて行っている取組みがありまして、そちらの方にそういったの企画を我々の方でもできないかなということで検討していこうという話をしております、市内だとふじのくに地球環境史ミュージアムさんがそういった取組みにご参加されて、全国版のPRにも名前を載せていただいて、市内だけではなく県内だったり、県外の先生方でもご参加できるようにそういった取組みをされていますので、我々の方でもちょうど7月31日に富士の国さんであります

ので、視察に行かせていただいて、ゆくゆくはそういったプログラムというのも夏休みに実施できると、市内だけではなく県内の先生との繋がりもできるのではと思います。

(堀切会長)

ボランティアのことについての何か補足ございますか。

(事務局)

ボランティアについては、今ご指摘いただいたことについて、有償無償の話については、現在は無償でしていただいている状況なので、今後ボランティアの方々の関わり方で一つ検討すべきことなのかなとご意見をいただいていたところでした。ボランティアにつきましては、現状の課題として人によって3か月だとか、あとは経験の長い方、短い方というところで、毎年館内の研修とほかの博物館を訪れてという研修を実施しているんですけども、どうしてもボランティアの方々の中での知識の濃淡もあるものですから、実際にボランティアの方々に指導をしていただくためには、より均一性のあるというか、よりスキルアップを図っていく必要があるんだろうなと感じておりますが、現状そんなにまだできていない現状がありますので、今後次第だと思います。

(田宮委員)

ボランティアの方もすごく熱心な方もいるし、深く色々なことを知っているけど、例えば子どもたちに「ここは子どもたちに調べて欲しい」とか、そのスキルは博物館の展示のスキルだけではなくて、子どもと接する、もしかしたらそのところで、ここ全部話をしちゃったら子どもたちがここを学習する余地がなくなっちゃうほど早口であったり、ここはその先この学年で調べてほしいでしょということもたくさんあると思うので、その辺りが先生との打ち合わせも必要だし、あとそういったことについても、これから社会教育施設が学校と連携していく中ではその部分がすごく必要かなと思います。

(事務局)

現在は、ミニチュア土器づくり体験だとか体験メニューの中で人が不足している時に来ていただいている形で講座だとか講義につきましては、学芸員が説明する体制を取っております。ボランティアのみでどこかにお伺いすることは今後も恐らくはないと思うんですけども、ただその中でも子どもたちと関わる中で体験をするにしてもサポートする、説明する中で、今ご指摘いただいたような、どこまで説明してどこまで次の学習をさらに促すようなところは、ボランティアの話をする中で必要なところだなと考えております。エピソードとか体験という話を先ほどご指摘いただいたと思うんですけども、今年、大里西小学校に行ってもらったボランティアの中に大里西小学校出身のボランティアさんがいて、久しぶりに母校に来たよというようなボランティアさんがいらっしやいまして、ボランティア

さんにとっても感慨深いというか、行けてよかったよという感想いただきました。子どもたちにとっても自分の地元の人がこういうふうに行っているんだなと感じられる機会になったと感じています。

(堀切会長)

前回の協議会でもボランティアの話が出まして、そのときボランティアさんが全員が同じ業務内容をやるという、それがベースにあっているんですけども、それだけじゃなくてどんどん分けてそこに得意なボランティアさんを配属する、担当してもらうという、そういうご意見があったと思います。そういう方向性でもまた含めてご検討いただけたらと思います。個人的には広報に特化したボランティアさんがあっていいかなって、そういう体験サポートももちろん大事ですけども、それだけじゃなくて、とにかく色々な博物館のイベントを取り上げていただいて、それを個人アカウントでもいいので SNS 等で発信していただいて、そういう広報活動のボランティアさん、そういうのも面白いのかなと思います。先ほどお話があったように、特に SNS は若者に対する訴求力が非常に強いので、例えば大学生のボランティアさんでそういうことを専門にやってくれる人、これは個人のアイディアですけども、仕事内容を分けて、接客が得意なボランティアさんは接客など、それぞれの得意分野で活動していただく形でもまたいいのかなと思います。

(事務局)

ボランティアさんの特に広報での活躍ということですけども、ご紹介させていただきますと、お仕事でドローンを扱われている方がボランティアさんの中でいらっしゃいますと、その方に登呂遺跡の四季の動画をドローンで撮っていただいて、PRF みたいに編集していただいたものを昨年だったらずチカでのイベントだったり、歴史博物館で広報映像として流させていただいたりとか、あとは職員にもドローンを扱うものがあるんですけども、その職員も指導を仰いでという形で撮影に協力をいただいたり、そういう形で正に自分の得意なことを活かしていただいているんですけども、今仰っていただいたとおり、それを SNS で活用するところまではまだなかなかいけてない部分が大いにあったりしますし、特に若いボランティアさんがいらっしゃるんですけども、広報にも関わっていただく発想がなかったなと思いましたので、すごく参考になりました。

(木村委員)

こちらの用紙を見せていただきまして、色々な提案に対して本当に真摯に実証していただいているなと感じました。自分が委員会に参加をしていた中で色々実証していただいたものもあるんですけども、今、何回も話がありましたボランティアさんに対してですけども、中高生向けのボランティア活動ができるような取組みはないのかなと思いました。博物館に来ていただいたり、出前講座ということで中高生向けのプログラムがあったり、逆に

今度はこちらでボランティア活動をして来ていただいた方に色々教えてあげたり、一緒に参加をしたりというような、そういう形での参加の仕方ができるプランみたいなのもあったらもう少し参加率が、中高生が興味を持ってくれるかなと思いました。あと、先ほどドローンの話をいただいたんですけれども、登呂博物館のホームページでぜひ映像で流してもらえたら、すごく魅力的なホームページになるんじゃないかなと思いました。あと、個人的な感想で申し訳ないのですけれども、企画展のタイトルがとても好きで、本当に行きたくないような、チラシを見てすごい興味がわくようなタイトルの企画がとても多いなと感じました。私は、50代になってすごいこういうところに興味を持った人間の一人として、若い頃は全然足が向かなかった博物館や美術館に本当に行ってみたいと思うような年齢になったんですけれども、登呂博物館は近くに住んでいたんですけれども、やっぱり今まであまり興味がなかったところだったんですけれども、ここ数年、SDGsを取り上げたり、今回のタイムトラベルというのも小学生にとったらワクワクするようなタイトルなのかなと思いました。本当に引き付けられる内容になっていて、本当にとても楽しく展示を見させていただきました。

ちょっと気になったのは、夏の企画展はとても興味深いものだったり、イベントも子どもさんが夏休みだったり、色んなイベントが多くて賑わいもあるんですけれども、冬の寒い時期に展示の内容とかイベントの集客が低いのは寒さのせいなのか、人の行動のせいなのかということがあって、冬の時期にもう少し人が博物館に来るようなイベントや行事、学校での取り組みとかそういう形のものができれば良いなと思いました。

(事務局)

特に冬の部分でご指摘をいただいたところなんですけれども、やはり入館者数を月ごとに見ていただけると、冬の12月から1月、2月にかけて閑散期という時期になってしまって、遺跡の見学者自体が少なくなってしまって、博物館の中にもなかなか人がという部分はあります。その中で、これまで冬の時期の辺りに行う企画展、こういったテーマを設定しようかと思ったときに、どちらかというと今までは冬の閑散期だからこそじゃないですけれども、登呂遺跡の中でも考古学という分野だけやったり、登呂遺跡の話だけではなくて、例えば他のジャンルの民俗学だったり、そういった他のところからテーマを持ってきて、少しチャレンジングな展示を企画しようというのを、ここ何年か企画展のターゲットの中のコンセプトという設定の中で意識をしていたところではあるのですけれども、今年になって改めて今おっしゃっていただいたとおり、集客が弱いのであれば人を呼べるような展示をすべきではないか、というご意見も館内には出てきたところではありまして、やはり人を呼ぶような目玉の企画を準備したり、キャッチーな企画展のタイトルだったりコンセプトだったりというのも人が少ない時期にやる理由というのも一個であるかと思いますので、どのタイミングでこういった企画展を企画するかというも是非考えていきたいなと思っております。

(田宮委員)

確かに企画展も魅力的なものができると良いと思うんですけども、もう少し観光というのを考えると、他の施設との回遊性の問題や食と結び付けるとか、一方でそういったことも考えていく必要もあるのではないのかなと。確かに好きな人はどんどん何回でもたぶん来ると思いますし、新しい企画展をやればまたそこに、だけど、その入口になるのはもしかしたらもっと柔らかなところから入っていく、例えば冬であれば久能山も一緒に行きながらイチゴを食すとか、そういったのも含めて回遊性というか、観光的なものも、そのところでもしかしたら、またすごく興味や関心を抱く人が増えていくのではないかなと感じたところです。

(事務局)

食についてのご意見をいただくというのは、博物館でもアンケートを取ってご来館した方からどんなイベントを企画すると面白いですかというアンケートを取ると、食に結びついた企画をしてほしいというお声をたくさんいただいております。なかなかこれまでコロナ禍のときには土器炊飯を中止せざるを得なかったりとか難しかった部分もあったんですけども、昨年くらいから土器炊飯についても、まだ定期的な復活はしてはいないんですけども、学校さんがいらっしゃったときに実施したり、企画展関連イベントで実施したりという形で、少しずつ今までやっていた食に関する我々主体でできるものを少しずつ復活させているところであります。まだもちろんここは伸ばす余地があるのかなと考えております。また、城南静岡高校さんが現在登呂遺跡で収穫した赤米を使って、昨年であれば赤米おはぎを天神屋さんとコラボして発売したり、今年の登呂フェスでは赤米を使った赤米バーガーだったりとか、デザートキッチンカーさんとコラボして赤米プリンだったりとか、あとはおにぎり屋さんのキッチンカーさんとコラボして古代米おむすびみたいなものをまずはとろフェスで販売していただけるということになっておりまして、そういった我々主体だけではなく学校団体さん、他の外部からの団体さんとも、我々主体だとできない部分であったり、手が届かない部分がというのが出てくるかと思えますけど、そういうところを他の団体さんと連携をしながらより色んな形に広げていけるといいのかなと考えております。こうしたら面白いんじゃないかというご意見ございましたらいただければと思います。よろしくお願いします。

(田宮委員)

確かに登呂博物館でやることも大切だと思うんですけども、そうではなくて、登呂博物館とどこかの別の施設と、静岡市の、いくつかモデルパターンじゃないですけど、要は観光交流文化局でやっているわけで、そうするとほかのところの施設と回っていく、半日だったら登呂博物館のどこから行って食事ができるとか、食事を入れたりそういうモデル、静岡市

全体を考えていく視点があると、もっと登呂博物館の楽しさ、登呂博物館はお勉強をしに行く場所じゃなくてもっと気軽に行ける場所ですよという形にしていけないと、なんて言ったらいいんでしょうか、多くの人が考えているのであればここで完結するのではなく、他とコラボしていくという視点もあると一般の人たちはたぶん嬉しいと思います。それで、初めてそこが入口であって良いと思うんですよ。とにかく足を運んでもらわないと分からない良さがある。そこじゃないかな。来てみるとなかなか面白いとか良い施設だし、あと外の公園もとても気持ちのいいところだということが分かるともう一回来てみよう、今度は個人で来てみようかなとか、ここだけに来てみようかなとなると思います。

(事務局)

今、仰っていただいたことは観光交流文化局としても考えているというか、それを進めましょうという話になると思います。今、彼ら学芸員のところで認識が十分できていない部分があったのかもしれないですけども、今、歴史、食、絶景この三つをコンセプトに色々なところに静岡のいいところをアピールしましょうというのが今、観光交流文化局のところに与えられた使命になっております。そうした中で、日本平の周辺と登呂遺跡、ちょっと遠いというところはあるんですけども、今までのアンケートを調べますと、登呂遺跡と久能山東照宮はセットみたいに次にどこに行きますか、あるいはどこから来ましたかという、久能山行ったあと登呂遺跡、あるいは登呂遺跡から久能山。もうちょっと足を延ばして三保というのが大分その辺のデータが集まりつつあります。そうした中で、今仰っていたように静岡の食は色んなところで本当は結構良いものがあるんですけども、そこを十分PRしてこなかったでしょっていうことを言われまして、じゃあ食はどういうふうにそこと関係させるんですか、というのを昨年あたりから、その辺りの切り口で今仰っていただいたとおり、まず魅力的なところにまず来てもらって、そこで知ってもらわないと次に繋がりませんよ、いくらお高く止まっても、それで来てくれる人は非常に限られた人達というようなところもあるものですから、そうしたところでやろうとしています。ですから、登呂遺跡、登呂博物館でも、今仰っていただいたような回遊していく地区、それから、もう一つはこの学びの広場という博物館前にスペースがあるんですけども、こういったところでそうしたものを例えば展示とかまちじゃないですけど、そうしたことで来てもらって、非常に敷居を低くしてということとは仰られたとおりやっていこうと考えております。ですから、久能山、あるいは歴史博物館もありますけど、あまり博物館博物館しているとお腹いっぱいだという話も色々ありまして、その辺りをもう少し色んなバリエーション、含めた形に進めようかなというところで、民間でも色々市と一緒にやろうとしているところもあったりします。ですので、そうしたところとうまく連携を取るとか、色々今考えているところはございますので、今仰っていただいたような、まだ私たちも十分慣れていないところもありますけれども、そうした視点で切り口を変えていこうというところはございますので、また今のようなご意見をいただけたらなと思います。

(藤田委員)

うちの旦那さんが近くで飲食店をやっていますが、実はハッシュタグに登呂遺跡と久能山東照宮を入れてやっています。登呂遺跡のあと来てくれたらいいなともちろん思いもありながらですけどけれど、逆にここに来た人ってご飯を食べるところがないんですよね。なので、普通に食事マップみたいなのが、このの辺りにあってもいいのかなとか、そういうことを今の話を聞いて思いましたし、あとは今までの話、学校での取り組みやボランティアさんなど色々な話や企画展の話もすごく真摯に取り組んでいらっしゃるなというのを踏まえた上で、それでもやっぱり限定的であるなというをすごく思っていて、新しい魅力や登呂遺跡自体の遊び方使い方みたいなのが あったら、まずハードル一つ下がってここにちょっと来てみようというふうになるのではないかなと思っていて、ファンを作るような、ここに来たら楽しいとか子どもとピクニックができるとか、冬だと夕日が綺麗なんですよ、そういったところがすごく映えるとか、その中で写真を撮ってみんなで上げてもらうようなハッシュタグがあったり、あとは、写真コンテストなんかもすごくいいかもしれないと、季節ごとにとっても素敵な稲があったり、田植えの時期は青々としていたり、そういった常に一期一会な景色がありますので、そういったものを写真を撮ってもらって、景色のコンテストとか、あとはそこに遊びに来ていただいた人の笑顔があると思うのでそういったコンテストとか、そういったものをやってもいいかもしれないと皆さんの話を聞きながら思いました。

(事務局)

感想みたいになってしまうのですが、私、今年の4月にこちらに異動になりまして、聞いたりお客さんとも話したりするんですけども、登呂遺跡って教科書で見たことがあったけど、こんなに街中であって、ただその中でも緑がたくさんあるんだね、田んぼがこんなに広いんだねというような感想をいただくことが多かったです。なので、今の写真の話とか、私が勤務している事務所は西日がきつ過ぎるんですけども、夕日がきれいだったりとかいうところもあったり、この間は夜だったのであんまり大きな声で言えないんですけども、たまたま安倍川の花火が屋上から見えたり、ということもあったりしてそういう切り口というのものもあるのかなと、ぜひ参考にさせていただけたらと思います。

(堀切会長)

他に何かありますか。

(丸山委員)

私、今年度から初めてということで色々な話をなるほどなと思いながら聞かせてもらって、初めての話ばかりなので、レジェメの中で見ながら一点だけ質問ということで、市議会

からの答申案が出てということで1枚目の下半分あるのですが、親しみ、学ぶ、関わる、発信するこういったことが連動して多くの市民が愛着を持つに繋がるということですね。皆さんの話を色々聞いている中で、親しむ学ぶ発信するという話があり、関わるは観光とかで関わるのかなと思いながら聞いていたんですが、関わるというところの地域住民と市外や県外から訪れる人たちが接点を持てるような仕組み作りとか、こういう話が今回取り組まれていることがあったのであれば教えていただきたいなと思います。この辺こういったことが影響があるということでここに盛り込まれていると思いますので、なにか今後の活動とかにあるのかなということをお聞かせいただければと思います。

(事務局)

この図の関わるというところが非常に少ないんじゃないかというのは、これは仰られたとおり、何をこの時に意図していたかということですのでけれども、一つは、先ほどありました登呂まつりですね。地元の人たちと来た人がここで接点を持ってもらって、もっというと、この地域にいる人たちが登呂の良さだとかそうしたことを来た人たちに話をしてもらえることで、こういうふうになると当然のように愛着のところに繋がるんじゃないですかみたいなところもあって、そういう場をいろいろ構えなくてはいけないじゃないですか、それがさっき言った登呂まつりは一つのチャンス。けれども、それ以外にももっと色々登呂遺跡、登呂博物館でチャンスを作っていく必要があるじゃないですか、というようなことがあってここに関わって入っているはずなんです。特に、今皆さんがいらっしゃるこの部屋は交流ホールという形で、ここを使って地域の人たちや登呂遺跡や登呂博物館に来てくれた人たちが、もっと何か関わるようなことができると思います、という部分があって名前を付けたわけですが、そういうところでいくとなかなか職員からも提案に沿う企画を出せていなかった。あるいは、地域からもそうした企画が出てこなかった。当たり前といえば当たり前で、こっちがその辺に対して門戸を開いていないという状況があったので、ですから、今仰っていただいたような関わるということが大分抜けていますよねと、今、丸山委員が仰られたとおり、そうしたところを色々ご指摘いただきながら、今後、登呂博物館、登呂遺跡として何をやっていけばいいのかなというようなところのヒントを皆さんから、そういったところも含めて、今、私たちがやっていることは書きましたけれど、十分指摘に対して回答という形には、実際、今日そこまで準備できていませんので、こういうことを言われました。博物館としてはこういったことを少し返しとしてやっていますということを書いてあるだけみたいな状態がありまして、次のときにも今回これを持ち帰っていただいて、そうは言っても色々足りないじゃないか、今日初めて見た資料というようなところも足りないじゃないというようなところ、それから、全然これまでの提言にももっとこういうことをやった方がいいんじゃないというそういう提言としての部分を含めて、これからの登呂博物館の事業を進めていくための今の現状と課題を出していただいて、そこに対してこうしていくのが良いよということを最終的には平成3年から、この表を見ていただきますと3年に提

言いただいて、それ以降言い方悪いですけども、私たち聞きっぱなしになっているところもあるものですから、そこを評価していただきながら、こうやったら本当に良くなるんじゃないというところをやらしていただけたらなというのが、今回こういうような話をさせていただいて、これまでのように何かテーマを決めてそれに対して意見を出していただくという、それだけで終わらないようにしたいということでやらしていただくというのが今回の主旨になりますので、まだ私も松原も4月に来て自分が思っていたところをこういう形で進めさせてもらえないかというような話を今やっています。十分じゃないかもしれませんが、一応そういう視点で今後進めたらなと考えているところです。

(鈴木健介委員)

要望ですが、本校は4月に1、6年ペアでここまで来て遊んでいます。6月には2年生が学区探検に来てその帰りも遊んで、バス停からすぐ降りたところを走り回っていて、登呂遺跡で自然があってこれだけ広くて、子どもたち贅沢でいいな、ここにすごく馴染むだろうなと思って眺めていたら、バス停で待っていたおばあさん、近所の方だと思うんですが年配の方が来て、「いいわね、子どもたち。でもここはマダニがすごく多くて、私なら遊ばせないわ」って言われてしまったんです。マダニがニュースか何かでやっていたときで、本当かな、どうかな、自然だからそういうこともあるんじゃないのかなと思いながらも、学校ですから、そういうふうに近所で言われているところで、知っていてなぜ遊ばせたってまた保護者から言われたらやだなと、そのときすごく、結局最後まで遊んじゃったのですが、整備と自然との折り合いのところは難しいところだと思うのですが、もしそういう危険なことがあれば、情報をいただければ今日は遊ぶのを止めようとか、やっぱり長袖長ズボンじゃなきゃ遊べないよねとか、対応ができると思うので、それは自分は噂話でいったので、そのままにしているんですけど、もしそういうものがあればアナウンスしてくれると、地域の方にもいいかなと思うし、地域も集える場所になると思うし学校も安心して使えるので、もしできたらお願いしたいと思います。

(事務局)

わかりました。そこはまた調べてみたいと思います。今の話は私たちは聞いたことがないです。

(鈴木健介委員)

そのときも子どもたちが特に刺されたという報告もなく過ごしているから大丈夫だと思うんです。地域にそういう噂があるのかもしれないです。

(事務局)

ただ犬もだいぶいるので、犬なんかにもしかしたらついている状態が見つかったらいいの

かも、私たちが知らないだけで、そういったこともあるかもしれませんので調べます。ただ、仰られる通り、もしマダニがいたとしてそれを駆除することは並大抵ではないですよ。ある程度自然のところにはいてしまうので、ただ今、言われるように、じゃあそうした場合にはどういう対応をした方がいいのかということはちゃんとそれはこちらも検討する。そういったのは、丸山先生がもしかしたら少しは植物や動物というか、でも本当にそういうところはうちの環境や観光局と話をしながらそうした場合はどうするのかということも、もしあればその辺はしますので、まずは調べるところから、初めて聞く話なので。ただ、例えば保存している藁には、マダニではないですけども、小さなダニなんかが付きます。だから、そういうこととマダニと一緒にあったり、自然のところにダニがいないのかと言われたら、そこは非常に厳しいところもあるので、またその辺を含めて次のときまでには返事ができるように色々調べたいと思います。

（堀切会長）

そろそろ時間になりますが、あと一人くらい何か発言したいという話がありましたら。よろしいでしょうか。では、皆様からたくさんの貴重なご意見いただいたと思いますので、これはまた引き続き協議を行って、また何か答申という形でまとめることができればいいかなと思っています。では、これで議事を終了させていただきます。